

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						猪岡 弘行			
理学療法管理学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
病院のリハビリテーション科の管理者として、臨床現場や病院経営に携わる理学療法士が、目標達成に向けて、材料や人的資源を合理的・経済的・効率的に活用して、どのように仕事の成果をあげているのかを伝える。学生には保険制度とその報酬の仕組みを理解し、コスト感覚を持つことの重要性についても学ぶことで、自身の理学療法士としての管理が出来るようになってほしい。今後の多様な働き方に触れる機会としてほしい。									
〔到達目標〕									
理学療法士としての自分自身の管理・患者の管理・収益の管理が出来るようになる。 臨床現場に出た際の経営的な観点からの具体的なイメージを持つことができる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
理学療法管理学（南江堂） 安全管理学・救急医療学（医歯薬出版株式会社）									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	・オリエンテーション ・第1章；管理運営 ～管理するとは・管理されるとは～				自分自身の管理や患者の管理、経営、物品の管理について理解することができる。				
2	・第2章；良質な医療の提供 ～目標の設定と目標達成までの過程～				BSC・SWOT分析・PDCAサイクルを理解し、活用することができる。				
3	・第3章；記録方法とデータ管理 ～理学療法評価が病院経営にどう影響するのかと診療記録の重要性について～				FIMやBIの記録が病院経営にどのように影響するのかを理解し、SOAPに基づく診療記録が書けるようになる。				
4	・第4章；社会保障と保険制度 ～各保険制度と地域包括ケアシステムについて～				リハビリに対する報酬を理解し、請求料金の算出が出来るようにする。また、自身の報酬を算出することができる。				
5	・第5章；身分法と職能団体、職域の拡大について ～日本理学療法士連盟と政治活動について～				人体の区分と方向の用語が分かり運動方向の理解ができる。				
6	第6章；職域拡大について～予防理学療法・産業理学療法・ウィメンズヘルス～				実技を通して、予防理学療法・産業理学療法・ウィメンズヘルスについて理解することができる。				
7	第6章；職域拡大について2～予防理学療法・産業理学療法・ウィメンズヘルス～				実技を通して、予防理学療法・産業理学療法・ウィメンズヘルスを体験することができる。				
8	第6章；職域拡大について3～予防理学療法・産業理学療法・ウィメンズヘルス～				実技を通して、予防理学療法・産業理学療法・ウィメンズヘルスを実践することができる。				
9	第7章；理学療法士の未来像について ～リハビリ業界のこれから～				世界の先端技術を用いたリハビリテーションに触れ、学生が主体的に自身の未来像について語ることができる				
10	第8章；医療安全について～医療事故や有害事象から再発予防の取り組みまで～				医療事故の成り立ちを理解し、再発予防策を講じることができる				
11	第9章；感染予防策 ～標準予防策について～				正しい手洗い手指消毒の方法を理解し、実践することができる。				
12	第10章；転倒予防策 ～理学療法士の立ち位置～				国家試験のイラスト問題を通して、転倒に配慮した理学療法を理解することができる。				
13	第11章；急性期・周術期における循環・代謝動態の管理について～バイタルサインの理解と実践～				循環動態の管理を実践し、記録することができる。また、その記録から、状態の評価をすることができる。				
14	第12章；第1～11章のまとめ				第1～11章において、更に理解を深めることができる。また実技内容においては、実践することができる。				
15	期末テスト解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕				〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(60点)と期末テスト(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	4	開講 区分	後期	担当教員 谷口豪		
授業科目名 総合演習Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕								
基礎系科目は医学の基礎であり、医療の世界では共通言語であるため正しい定義、意味を理解できるようになること。そして臨床実習で経験・担当した症例について、その臨床像や障害像について解剖学、生理学、運動学の知識を用いて深く理解できるようになること。来年の国家試験（基礎医学分野）の正答率を向上させ、かつ卒後の臨床に活かさせる知識を身に着ける。								
〔到達目標〕								
(1) 授業オリエンテーション、小テスト、基礎医学概論 (2) 代謝と運動について基礎医学の知識で説明できる (3) 神経系の構造と機能について基礎医学の知識で説明できる① (4) 神経系の構造と機能について基礎医学の知識で説明できる② (5) 骨格筋の構造と機能について基礎医学の知識で説明できる (6) 血液と循環の機能について基礎医学の知識で説明できる (7) 呼吸とエネルギー変換の機能について基礎医学の知識で説明できる (8) 免疫と生体防御の機能について基礎医学の知識で説明できる (9) 運動制御の構造と機能について基礎医学の知識で説明できる① (10) 運動制御構造と機能について基礎医学の知識で説明できる② (11) 運動学習の特性と機能について基礎医学の知識で説明できる (12) 移動と生活の特性と機能について基礎医学の知識で説明できる (13) 摂食と生活の特性と機能について基礎医学の知識で説明できる (14) 排泄と生活の特性と機能について基礎医学の知識で説明できる (15) 講義まとめ								
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕				
・標準理学療法学・作業療法解剖学第5版（医学書院） ・標準理学療法学・作業療法学生理学（医学書院） ・標準理学療法学・作業療法内科学（医学書院） ・クエスチョンバンク ・配布資料				毎回の講義資料を振り返り次回の小テストの準備とする。また積極的に基礎医学の教科書などを読み、常に医学情報に関心を持つこと。疑問点はテキストなどで確認してみるなど、自己学習の習慣を身に付ける。また、各講義の予習、復習を1時間程度行う。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	・オリエンテーション			1年生で学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
2	・第1章；管理運営 ～管理するとは・管理されるとは～			すでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
3	・基礎医学各論 代謝と運動			すでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
4	・基礎医学各論 神経系①			神経系に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
5	小テスト（10点満点）			神経系に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
6	・基礎医学各論 神経系②			神経系に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
7	小テスト（10点満点）			骨格筋に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
8	・基礎医学各論 骨格筋			骨格筋に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
9	小テスト（10点満点）			血液と循環に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
10	・基礎医学各論 血液と循環			血液と循環に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
11	小テスト（10点満点）			呼吸とエネルギー変換に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
12	第6章；職域拡大について2			免疫と生体防御に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
13	・基礎医学各論 免疫と生体防御			運動制御に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
14	小テスト（10点満点）			運動制御に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
15	・基礎医学各論 運動制御①			運動学習に関してすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
16	小テスト（10点満点）			移動とADLに関連した内容をすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
17	・基礎医学各論 運動制御②			摂食とADLに関連した内容をすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
18	小テスト（10点満点）			排泄とADLに関連した内容をすでに学習した基礎医学の知識を復習しながら、臨床像とリンクできること。				
19	・運動学基礎と生理学 運動学習			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
20	小テスト（10点満点）							
21	・運動学基礎と生理学 移動と生活							
22	小テスト（10点満点）							
23	・運動学基礎と生理学 摂食と生活							
24	小テスト（10点満点）							
25	運動学基礎と生理学 排泄と生活							
26	小テスト（10点満点）							
27	講義まとめ期末試験							
28	小テスト（100点満点）							
〔評価について〕				〔特記事項〕				
筆記試験、○×の選択試験で行う。試験は小テスト（各10点×12回）と総括後のテスト（100点×2回）、実施する。				毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				